



Japan
College of
Social Work
Alumni
Association

vol.
79

社大 同窓会



創作同好会制作 70周年記念イベントポスター



創立70周年 記念イベント開催のご報告

平成28年10月29日、在校生と卒業生による「創立70周年記念イベント」を日本社会事業大学大講堂にて開催いたしました。この記念行事は、学生自治会を始めとして、サークル・学祭実行委員の協力のもと在校生と日本社会事業大学同窓会が共に作り上げてきたものです。

当日は全国から300名を超えるご参加をいただきました。記念行事の開催にあたり、様々にご尽力いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。また、残念ながらお出になられなかった皆様には、この場をお借りしてご報告させていただきます。

学生自治会 自治会長 飯山 由貴
同窓会 会長 大橋 謙策



写真撮影 滝澤荘造 (学部14)

発行所／日本社会事業大学同窓会 〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

電話042-496-3053 振替口座00100-9-42448

ホームページ <http://jcsw-alumni.com/>

編集・印刷／株式会社 JA情報サービス(日本農業新聞グループ)

発行日／平成29年1月25日

M31星団



ワコウ・ブルー・マリーナ



レベツ科



井ノ上洋・てい



青木ひろみ・乙川利夫

公募出演者

70周年記念コンサート

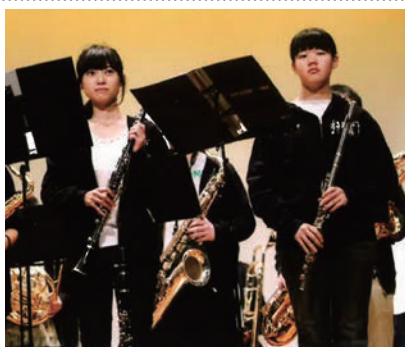


70周年記念イベントポスター
制作/1年 櫻井彩乃

学生出演団体



マンドリンアンサンブル



ブラスバンドサークル



混声合唱団菩提樹

卒業生記念ステージ



ボーカル 大越康子(学部27)

サクソ 高橋義孝(学部25)





70周年記念イベントポスター 制作/2年 藪並円佳



ドラム 岡本俊文(客演)



ベース 田野重松(客演)



ピアノ 内山良平(研48)

70周年記念式典



大島 巖学長挨拶



同窓会功労者代表(松窓寮国安前管理人と坂田福岡県支部長)への記念品贈呈

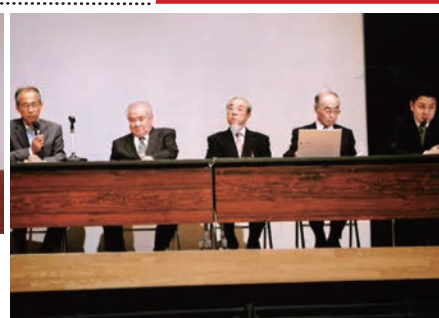
交流会



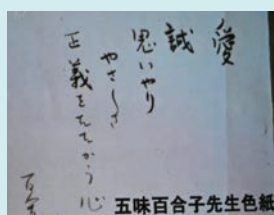
社大70年の検証



神田均
(研7・静岡県ボランティア協会)



創立70周年記念スライドショーをDVDにしました



懐かしい恩師の皆様はじめ、70年各年代の代表的な写真がスライドショーになっています。農村要保護世帯調査(昭和22年)教職員集合写真(24~25年頃)新入生歓迎大運動会(47年)原宿竹下通り(53年)第2松窓寮・男子寮お別れパーティ(63年)恩師の皆様(五味百合子、仲村優一、小宮山主計、小川利夫、小川政亮、垣内芳子、飯田精一、高澤武司、杉森創吉)など約100点

このDVD限定20枚を、送料込みで1枚1,000円でお譲りしますので、6ページの70周年記念プレゼントのあて先までお申し込みください。





虹 想いをつなぎ、光を紡ぎ、花開く

第70代学生自治会長 飯山 由貴



この70周年記念式典は、学生自治会を始めとして演劇研究会・学生児童劇団ピッポ・マンドリンアンサンブル・ブラスバンドサークル・菩提樹・学祭実行委員の協力のもと日本社会事業大学同窓会と共に作り上げてきた式典です。また、なにより日本社会事業大学に入ったばかりの一年生が積極的に協力してくれました。

我が大学は、戦後間もない1946年。連合国軍最高司令部（GHQ）による戦後改革の影響を受け、現在の日本社会事業大学の前身となる「日本社会事業学校」が設立されました。その後、専門学校、短期大学、大学と名称が変わってゆきますが、福祉のリーダーを養成するという目的は今も変わっていません。私たち在校生は、日本社会事業大学の素晴らしい歴史を築き上げ、今まで活躍されてきた先輩方に尊敬の念を抱くとともに、感謝申し上げます。

2011年東日本大震災の発生時、私はもうすぐ高校生になる年でした。避難訓練でしか見たことのない「本部」と書かれた白い旗を先生が持っているのを見て、現実かどうか疑う半分、とても緊張していたのを思い出します。私の出身の地新潟県佐渡市は、30cmの津波が来ましたが、大きな被害はなく、地震の後はいつも通り部活をしていました。しかし顧問の先生が、生徒に帰宅するよう指示しており、「そんなに大げさにしなくてもいいのに」と思いながら帰宅しました。帰宅して最初に目にしたのは、テレビで大きな波と共に家が流されている衝撃的な映像でした。どこのチャンネルを回しても同じ映像で、これはただ事ではないと初めて実感しました。

震災から5年がたった今でも鮮明に覚えているということは、私にとっても、とても衝撃的なものだったのだと思います。



この経験は、私の進路を決める道となりました。被害状況を伝える映像からその後の支援についての報道に少しずつ移り、私は対人支援に興味を持ち始め福祉の道に進もうと決めました。

入学しても様々な震災が、日本を、世界を襲いました。その中で日本社会事業大学の先輩方が支援に入っていく福祉実践を行っていたことは、私達学生の中でも話題になり、そんな先輩方の様になりたいと強く感じました。

さて、今回の70周年記念のテーマは、“虹・想いをつなぎ光を紡ぎ花開く”です。このテーマは、私達学生が決めました。このテーマにこめられた想いは、先ほど述べた通り、日本社会事業大学の先輩方の、対人支援を始めとした福祉実践に対する想い、価値、考え方、人を思いやる率直な気持ち、学びの探求、あらゆる老若男女の立場に自分を置いて共感する心——これらは、まさに光だと考えています。この光を私達学生が紡ぎ、一つの大きな大きな物語として、大輪の花を咲かせ続けたい。そして、その花によって、すべてのひとびとにとって、もっと住みやすい世界を築く懸け橋・虹になればと思い、このテーマに決めました。

「70年」という時間の捉え方は人により様々であると思いますが、1人の人生のほとんどを占めると考えると、決して短い時間ではありません。その時代を担う若い人達が人や社会を支える福祉を学び、その高い知識や技術を評価され続けてきたからこそ、こうして70周年を迎えられたのだと思います。

この間に先輩方は、どれだけの人々の気持ちに寄り添い、どれだけ葛藤があり、どれだけ悲しいことにあい、どれだけの人々を見てきたのか、そしてどれだけの花を咲かせてきたのか、それらの光はまぶしすぎて、私達在校生にはまだまだ見えません。けれども、この70周年記念式典で70年を共に先輩達と祝い、これからの未来へつないで行けることは、何よりも喜びであります。

そして、改めてこの大学で学べる幸せを胸に、多方でご活躍されている卒業生が築き上げてきた歴史を大切に、想いをつなぎ、光を紡ぎ、これからも大輪の花を開かせることを在校生一同決意し、私の挨拶に代えさせていただきます。

同窓生通信

創立70周年記念誌の紹介



社大教育と卒業生の
実践の軌跡(全53頁)
創立70周年を機に、
32人の卒業生の実践を
取りまとめ刊行しました。

同窓会では、卒業生同士のネットワークとして、現場実践を振り返る場として、あるいは社大教育とつながる場として、同窓生の現場実践を支える活動をしていきたいと考えています。これまで多くの実践を積み重ねてこられた原宿世代の知識と経験が、これから活躍する清瀬世代へと受け継がれるよう、さまざまに取り組みを計画していますが、その一環として、創立七十周年を機に、卒業生の実践を取りまとめ、本書を刊行することになりました。これまでの社大教育と卒業生の実践の軌跡を知っていただき、これからの社大と同窓会の発展にご協力いただければ幸いです。

(創立七十周年記念誌の刊行にあたって)

少しなりとも世の中をよくしていこう

武居 敏(学部十二期 一九七二年卒)

今年、大橋同窓会長の代理で社大の卒業式で祝辞を述べることになりました。自分の卒業以来の母校の卒業式です。

そこで、自分の卒業当時を思い出してみよう。一九七二年もう四十四年も前です。在学中は、大学紛争あり、大学封鎖ありという時代でした。卒業式の服装も今と全く異なり、普段着姿で地味なものでした。さらに、学生運動などのため同級生の何人もが留年し、皆と共に祝う卒業式ではなかったと記憶しています。

しかし、就職後の仕事に対する気持ちは充実していました。当時はまだ、社会福祉は特別な人たちのためのものという時代でした。私自身も、入学時に目的が明確だったわけではなく、その後の大学4年間で、仲村優一、木田徹郎、五味百合子、小松源助、杉森創吉といった先生方、特に小松先生にはゼミや就職活動を通じてお世話になり、自分の希望する社会福祉の現場で働くという目標を持つことができました。当時は卒業生の九十%以上が社会福祉の現場に就職しました。

自分の卒業時の気持ちはどんなだったのだろうか、と考えていたら、内村鑑三の「後世への最大遺物」の中の文章を思い出しました。

「天文学者のハーシェルが二十歳ばかりのときに彼の友人に語って、『わが愛する友よ、われわれが死ぬときには、我々が生まれた時より世の中

を少しなりとも良くして往かうではないか。』と」(※)

今思えば青臭い感はしますが、「自分たちが社会福祉の仕事をする中で、少しでもこの世の中を良くしていこう」というようなことを考えていたのではなかったか」と思います。そして第一、第二の職業人生を終えた今、この当初の目標は達成されたのかというと、まだ明確に答えられるものではなく、第三の職業人生となり、今与えられたいくつかの役割の中で、改めて「少しでもこの世の中を良くして逝こう」との決意を再確認しなければなりません。ただ、一貫して社会福祉という視点は見失うことなく仕事をしてきた、ということだけは確かだと思っています。

さて、卒業式の当日、袴姿の女子学生、多数の保護者の参列、院生の角帽姿、いずれも私の卒業式の時とは大きく異なっていました。現在、社会福祉を取り巻く環境も大いに変わり、社会福祉に働く者にとっての環境は格段に良くなっています。「今日の卒業生はこれからの仕事をどう考えているのだろうか。」と思うとともに、母校の卒業生が社会福祉というフィールドで働くことで、「少しなりともこの世の中を良くして往こう」と、我が国の社会福祉のために活躍してくれることを願うものです。

二〇一六年八月八日

※ 内村鑑三著作集第十六巻
三三三頁 昭和二十八年岩波書店

寄稿者一覧(卒業年順)

上田 忠義	後輩とのつながりを求めて	宮本 節子	『仲村優一先生と「きけわだつみのこえ」戦争を知らない世代が社会福祉の研究・実践を積み重ねることについて』
中村 晃	五味百合子先生追憶の記	大橋 謙策	ソーシャルワーク機能を習得できた社大の教育と学風
秋田谷 秀敏	学校と私	塩川 寿平	
渡部 剛士	私が学んだもの 地域で学び、地域で問題を掘り起こすこと	坂口 扶仁子	社大は私の原点
神田 均	福祉草創期の原宿時代から現代まで	村上 勝彦	社大の卒業生であることを誇りに
杉山 了	社大の目指すもの	黒田 民子	私の原点
横川 満雄	社大70周年を祝って	阪野 貢	
伊藤 博胤	「母校70周年」に寄せて	佐藤 与志夫	五味先生との思い出を通して社大をふりかえる
石橋 俊一	忘れられない「全社ゼミ」と「同窓会活動」	武居 敏	少しなりとも世の中をよくしていこう
潮谷 義子	「変わったこと、変えられないこと」	藤崎 信一	原宿時代は遠くになりけり
石橋 須見江	夢の実現への道のり 新たな社会福祉法人の在り方を求めて	藤本 風明	
林田 恒正	人生の原点-それは社大	高松 孝幸	
山本 圭介	社大入学から55年の歩み	高橋 英樹	ソーシャルワークのエートスを育む時空間
和田 敏明		星野 久志	恩師の思い出
野村 健一郎	私が歩んだ行政組織の中でのソーシャルワーク	武田 睦美	創立70周年おめでとうございます
山城 厚生	密度濃かった原宿(社大)の1年	大坂 力	



10月22日(土)

日社大 市民公開セミナー in 釧路

釧路新聞掲載

「児童福祉」をテーマに、本学より金子恵美教授が記念講演を行いました。保育所や子育て支援センターなどの職員はじめ釧路市民生委員児童委員など約110名の参加者と共に地域の子どもの現状を共有し、今後の支援のあり方を模索しました。(北海道同窓会秋季セミナーと同時開催)



11月4日(金)



あいづわかまつ地域福祉を考えるフォーラム

11月12日(土)



1980年度生 第8回同窓会

11月3日(祝)



第26回いたるまつり

子ども学園は、学校法人日本社会事業大学の附属施設として1981年に発足しました。その前史は1965年に学内に開設された「いたる学園」といい、その名は知的障害児教育の創始者フランスのろう学校医ジャン・イタルにあやかっています。学園創設者の故飯田精一名誉教授は、イタルの言葉「体験は人を育てる」を学園理念とし、療育の福祉的支援技法について、「ひとつにこだわらず、子ども一人ひとりを良く見て、常に発展させていくことが大切なこと」としました。

記念ボールペン ▶

70周年記念品 プレゼント



先着20名様に70周年記念品セット(記念誌、クリアファイル2種類、ボールペン)をプレゼントいたします。住所・氏名を次のあて先までご連絡ください。

<郵便の方>

〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30
日本社会事業大学同窓会

<FAXの方> 042-496-3051

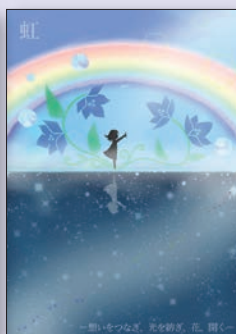
<E-mailの方> kouyu@jcsu.ac.jp

70周年記念品4点セット(70周年限定品)

記念ファイルB



記念ファイルA



日社大と卒業生の
実践の軌跡

Since 1946

創立70周年記念誌
日本社会事業大学同窓会

記念誌

北海道支部 同窓会秋季セミナー

子ども・子育て支援法施行2年、今こそ子どもの福祉を考えよう!!
セミナー開催にあたって

北海道同窓会会長 村上 勝彦

私たちが卒業した日本社会事業大学は、戦後間もない1946年に開学し、厚生省(現厚生労働省)の委託により社会福祉従事者の養成等を行っています。北海道には200人近い卒業生がいて、年に2回の研修交流(新春セミナー及び秋季セミナー)を継続してきました。とりわけ秋季セミナーは道内4ブロックの持ち回りとし、今年は道東が担当であることから、釧路市での開催となりました。また、2013年以降は、「日社大市民公開セミナー」と銘打って、社大と他大学関係者、また地域の方々の協同の実践研究の場を提供してきました。

ご承知のように、今日の社会福祉は極めて混迷を深めており、そこに携わっている関係者の連携が重要な時期を迎えていると言えます。子ども、高齢者、障がいを持つ人、低所得者など、社会福祉を必要としている人は年々増加しているものの、国の予算は通減傾向にあり、「貧困」や「難民」といった課題を具体的に解決していかなければならない状況にあります。

こうした中において、何よりも大切なことは、社会福祉制度利用者が安

心して暮らせる社会を創出していくことであり、そのためには、社会福祉に携わる人々が、その立場や職域を生かし、協力共同しながら、社会福祉業務を進めていくことです。

このたびは、子ども福祉の実践及び研究者である金子恵美教授をお迎え、道内で現在活躍中の方々をシンポジストとして、表題のような企画を立案しました。地域の中での連帯が失われて行きつつある現況にあって、それを踏まえた上で、どのように地域を再生していくのか、そのためには、地域社会福祉に携わる人は何をしなければならないのか等を、「子ども福祉」を通して率直に語り合い、智慧を出し合い、それを基に社会福祉実践をしていく切っ掛けを、この場で創り上げていきたいと考えています。

10月22日(土)釧路センチュリーキャッスルホテル



基調講演
金子恵美氏
日本社会事業大学教授



日本社会事業大学の紹介
福永欣司氏
同・通信教育科

1980年度生第8回同窓会

早いもので、私たち1980年度生が社大に入学して36年という歳月が過ぎました。

この間、7回の同窓会を開き旧交を温めてまいりましたが、11月12日(土)に第8回クラス会を開催しました。(民生委員の改選にあわせて3年に1回開催しています?)



当日は、大橋先生、佐藤先生、庄司先生など5人の教職員にお出でいただき、41人の同窓生の出席のもと開かれ、それぞれの場で頑張っている同窓生の話や懐かしい先生方の話を聞いて、もう少し頑張ろうと刺激を受け合いました。(写真提供 井口拓治)

専修科16期(1967年卒)
クラス会の近況

来年で卒業50年になります。ここ数年、10人前後の同期が集い、8年前は南浦和のレストランで親睦を図っていましたが、近年は東京田町にインテリア事業をしている同級生がオフィスを構えていることから、その場所を利用し有意義な会を開催しています。昨年9月11日の写真を添付しました。



遠くは愛媛県今治市や宇都宮市、高崎市から集い、各地域で夫々活躍しており、上記の様な自営業やNPO法人の代表者は2名等々、皆元気です。現在消息が判明、把握している仲間は21名ですが、卒業50周年を機に同級生名簿の充実を図りたいと考えています。

大沢英雄

福島県支部

地域福祉を考えるフォーラムを開催

11月4日(金)會津稽古堂多目的ホールにおいて「あいづわかまつ地域福祉を考えるフォーラム」を開催しました。当日は、日本社会事業大学大橋謙策同窓会長による基調講演のほか会津若松市の地域課題を解決するために地域住民が協力・連携した取り組みを行っている2つの地域の事例発表を行い、参加者は定員の120名を大幅に上回る190名が来場しました。

また、大橋会長と藤野さん(同窓会事務局次長)には懇親会へも参加いただき楽しい交流の機会を持つことができました。超多忙なスケジュールの中、同窓生との懇談を深めていただいたことに会員一同から感謝しています。

菊地恵子



訃報

母校名誉教授の前田大作先生(11月29日)

日本社会事業短期大学本科3期(1952年卒)、専門分野/社会老年学、高齢者福祉、コミュニティーワーク、統計解析

俳優・伊東理昭さん(12月15日)

神奈川県出身。日本社会事業大学社会福祉学部(学部15)卒業後、1978年に劇団民藝に入り、85年劇団員となる。初舞台は79年「ちいさな広場」、主な舞台は「アンネの日記」のオットー・フランク役など。最近では08年「海鳴り」(藤沢周平原作)、14年「バウンティフルへの旅」(ホートン・フート作)などに出演

同窓会費納入にご協力を

10月29日母校創立70周年を記念して、同窓生と在校生が共同で記念イベントを実施しました。今後同窓会は、卒業生同士での活動だけでなく在校生とも一緒になって、社大教育と実践をつないでいきたいと考えています。また、実習現場の提供や就職支援はもとより、法人とも協議して学生ボランティア支援事業などの大学・在校生に対する

具体的支援についても組織的に取り組みを進めていきます。

このようなことから、同窓生各位におかれましては社大と同窓会のこれからのさらなる発展のため、一人でも多くの方からの会費納入についてご協力を賜りますようお願いする次第です。

役員・事務局一同



「福祉」と「フォークソング」の 風に吹かれて

山本 智
学部25期
(1985年卒)

高齢者支援から子ども支援へ
キャリアチェンジされましたか？

卒業からの経歴ですが、元々卒論は「障害児の音楽療法」を飯田精一先生（子ども学園設立者）にみていただきました。教員免許（中・高・養護）を取得し一九八五年に卒業しましたが、希望職につけずそこで学生時代から続けた音楽でプロ活動に入りました。福祉については「現場から離れなければ仕事はある」と言われ、現場からは離れないことでその志は守ることにしました。地元保健所ディケアの音楽講師を務め、そのまま精神科ソーシャルワーカー（グループワーカー）を十五年、その間地域の居場所づくりで精神障害者共同作業所を立上げました。（現在は就労継続支援B型事業所となり理事担当）

四十歳を前に音楽活動に節目をつけ、作業所立ち上げ経験から介護保険施設の正規職員となりました。介護老人保健施設二ヶ所の立上げ、支援相談員、相談部長、介護支援専門員取得後は通所デイの立上げ所長、居宅介護支援事業所所長等を担った十五年でした。（この間に社大通信教育科で社会福祉士を取得）



三郎先生との出会いから日本スクールソーシャルワーク協会や修復的対話フォーラムに参加していたので、念願の子ども支援をジェネラリスト的な経験を生かしてできるなら、またソーシャルワークを教わった母校に微力でも貢献できるなら、との思いで踏み切りました。

シンガー&ソングライターとしての
肩書きもありますか？

音楽遍歴は、小学時代にじめにあい自室にこもりギターに親しんだのが始まりでした。中学で日記の延長でオリジナルを書き、高校でコンテストや市民音楽祭に出場しうたい始めました。受験で音楽熱を一旦鎮めた。大学は福祉・福祉なら社大！と一浪後上京しましたが、入学式で校歌の歌詞に驚き、新歓で音楽サークルに迎えられ、音楽の虫がうずきました。「大空」と「マンドリン・アンサンブル」を掛持ちし、ジャズ教室に通っては土日プロシンガーのツアーベースを弾き

ました。

卒業後は結局就職せずそのままプロとなり、二十五歳からシンガー&ソングライターとしてライブやコンサート、また全国の小・中学校、子ども劇場、福祉施設等であつた、ラジオで話したり、折々にアルバム制作をしてきました。

転機は一九九九年、フォークシンガーの父といわれるビート・シンガー氏の自伝共訳出版に關わり編集打合せでニューヨークに行き、そこで自作を聴いていただく機会を得ました。彼は真剣に聴いて抱きしめてくれました。そのエールをもらって以来ライフワーク・ソングの弾き語りは公の意識で続けています。（昨年がデビュー三十周年）

社大七十周年コンサートに出演

この春は園長業務に専念しており募集メ切を逸しましたが、都内での定期ライブ時に同窓生が来て提案してくれました。MCで「昨年国会前で高校生等が自作の『ヒロシマの有る国』をうたってくれた」話をしたので「ぜひ社大七十周年記念コンサートで合同演奏しよう！」と盛り立ててくれました。彼らの尽力でサークルOB・OGの方々も現役との連絡が繋がり企画がまとまりました。同窓会事務局長の菱沼幹男先生からも「演奏本番ではぜひセンターで！」と

学生時代の思い出

言っていた通り、おかげで自作の合同演奏に出演できました。この歌は在学中の作品で、平和を愛する人々の思いを込めたものです。小・中学校の合唱教材や副読本で扱われたこともあり広まりました。沢山の同窓生と現役と共に七十周年記念演奏ができたことはとても光栄でした。（演奏模様はYouTube参照）



授業出席の他はサークル三昧でした。学祭実行委員となつてテーマソングを作りその頃からサークル合同等をしていました。また、当時学内では堀木訴訟支援の輪が広がっており、判決日に最高裁にサークルで駆けつけ、浪人時代に作曲した支援ソング『ひとりのお母さん』を支援者と堀木さんに聴いていたかったです。今となれば、友人との出会いと思いが何よりの宝物です。この体験は福祉人生

の時々で実践躊躇したり自尊心が下がり気味の時、自らを問い可能性を感じとる元気の素になつていきます。

今後の抱負

飯田先生ゆかりの創立三十五周年を迎えた子ども学園で子ども支援させていただくのは大きな喜びですし責任を感じます。福祉型児童発達支援センターとして機能していきますが、日頃から子どもたちや保護者の皆さんのそばにいて、心かたむけて、花のある風通しの良い社大らしきで運営したいと思っています。顔の見える関係づくりは、人も関係機関も活性化し仕事もスムーズになりますからそんなソーシャルワーカーの連携調整の醍醐味を実習生にもふれてもらいたいです。「今居る所から幸せに！」ですね。

休みがもらえたら、・・・福島島の母の見舞いと原発事故後の継続支援、そしてギターで歌作りにいそしみたいと思います。

プロフィール

山本 智（やまもと さとし）

福島県生まれ。1985年日本社会事業大学児童福祉学科卒。社会福祉士、介護支援専門員、日本社会事業大学附属子ども学園園長。シンガー&ソングライターでもあり目線の低いフォーキーな歌を作っている。代表曲「ヒロシマの有る国で」。また、NPO法人ラルゴ理事、RJ（修復的対話）フォーラム会員、日本音楽著作権協会会員。

※ホームページ<http://www.satoshi-y.net/>